名蹟紹介

鄭道昭（？～516）

◆鄭羲下碑（511）

北魏の能書家。字は僖伯、自ら中岳先生と号した。河南省の人。

鄭羲下碑は、鄭道昭が父鄭羲之の事跡などを後世に伝えるべく摩崖に刻した頌徳の碑である。初め天柱山の岩壁に刻したが、石質不良のため、さらに雲峰山の崖石に堀り直し、前者を上碑、後者を下碑と称した。

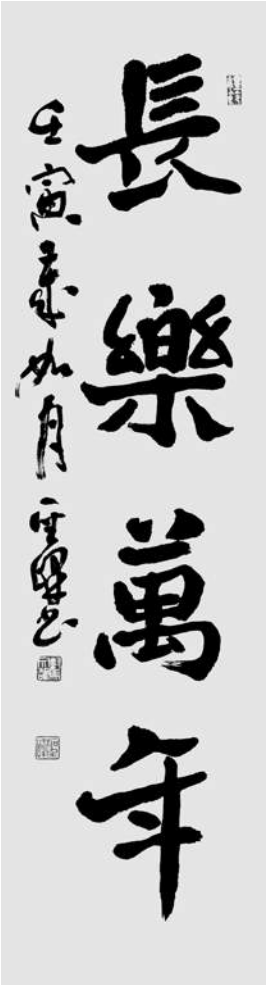
下碑は1行約29字、51行で、不定型な自然石の形のままに従って行を進め、文字を彫りつけている。筆法は、鋭く深く強い円筆（筆管を紙面に垂直にあてて穂先を点画の中に隠すようにする筆遣い）で書かれており、碑文にはとりわけ異体、別体の文字が多い。その書は一点一画に気を配った、謹厳、緊張のうちにもゆとりのある書き方で、あくまでも精妙である。波打つように引く横画、のびのびした波法など万事がゆったりとしている。

策匡時　司空豫州　以勳德著稱　高祖

（136×35㎝）

この碑の特徴は、豪放雄大な抱擁力と遠心的な広がり、そしてゆったりとした字形にあります。用筆的には、篆書や隷書の要素が含まれているものもあります。篆書の特徴である均一な太さの線、ハリガネを曲げたような丸みのある画、隷書的な円筆と中鋒による線は強靭な精神を感じさせます。あくせくした毎日を反省するには好適な作品と言えます。

長楽萬年（ちょうらくまんねん）



楽しいことの、久しく限りなきこと。

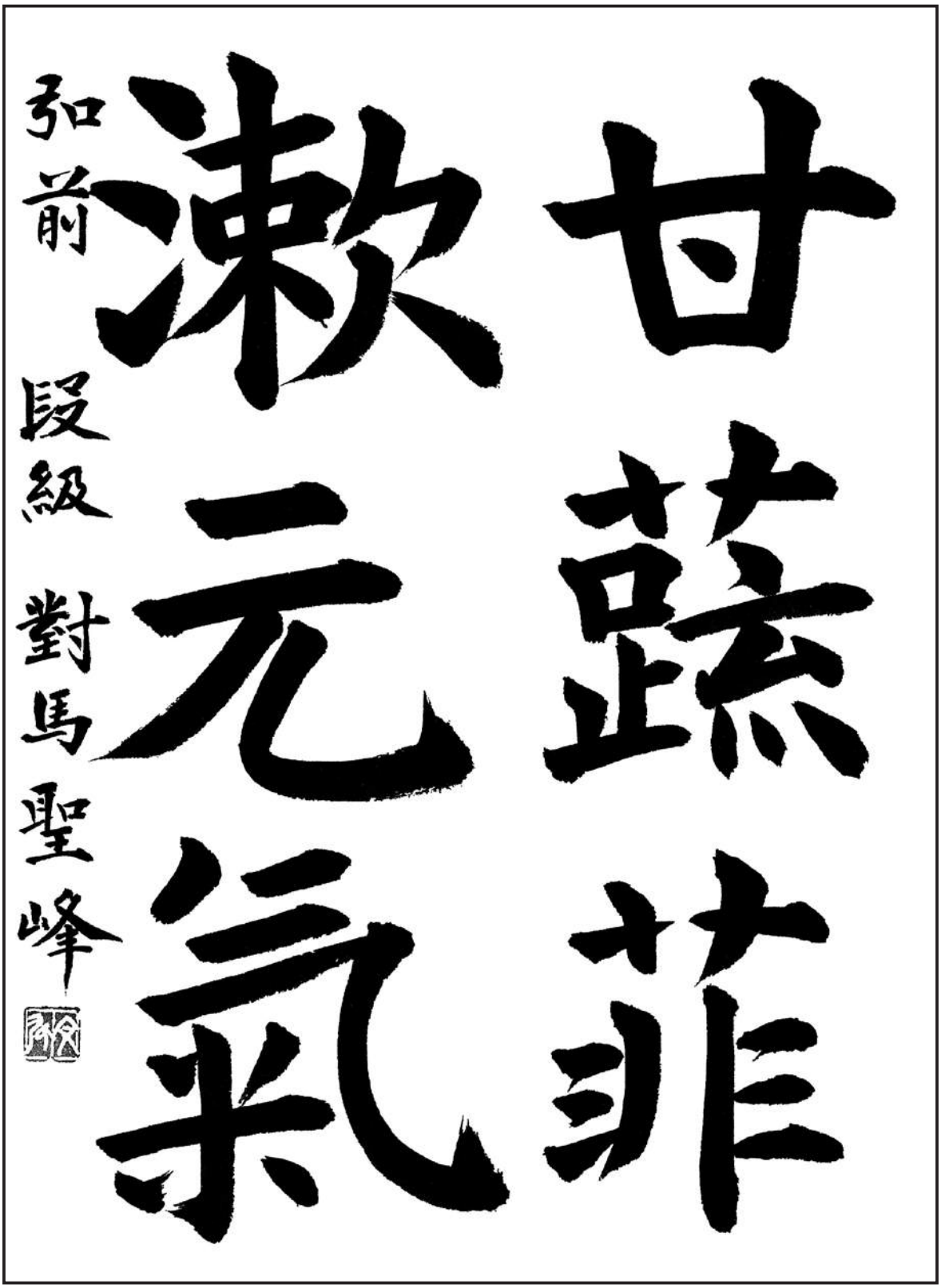
（100×28㎝）

運筆はあくまで悠々と伸びやかにということに留意し、起筆は蔵鋒で円筆、逆に露鋒でやや方筆気味とを使い分けています。筆鋒を開かず、しぼりながら、ねじりながら収筆まで引っぱっていく表現は実践のみでしか知り得ないものでしょう。

2月号　　楷書臨書課題（漢字半紙部）　對馬聖峰臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

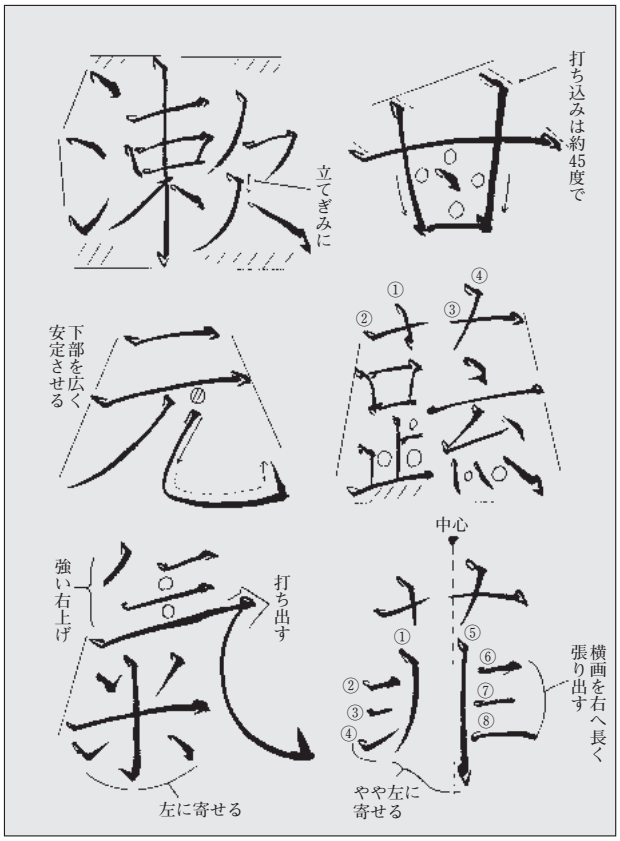
※弘前の部分には支部名を書く



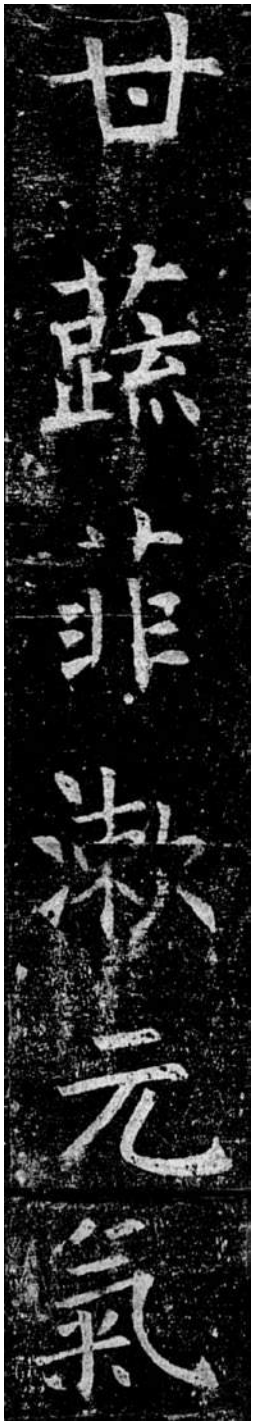
使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

楷書臨書課題解説

褚遂良（ちょすいりょう）　孟法師碑（もうほうしひ）



原帖



〔甘蔬菲漱元氣〕蔬菲を甘とし、元気を（停午に）漱ぎ、

〔甘〕 画の始筆・終筆の打ち込みは約45度に角度をつくる。縦画は内側に傾けて下部を狭く。点の位置に注意し、余白を均等にする。

〔蔬〕 草冠の筆順に注意（骨法参照）し、全体に台形に形づくる。**ル**は3つの点となり、大きさ・方向に配慮する。

〔菲〕 中心に気を配り、**非**は筆順に注意し、やや左に寄せる。右の3本の横画は右へ長く張り出す。

〔漱〕 3つの部分の高低に配慮してまとめる。最終画は方向に注意してどっしりと。

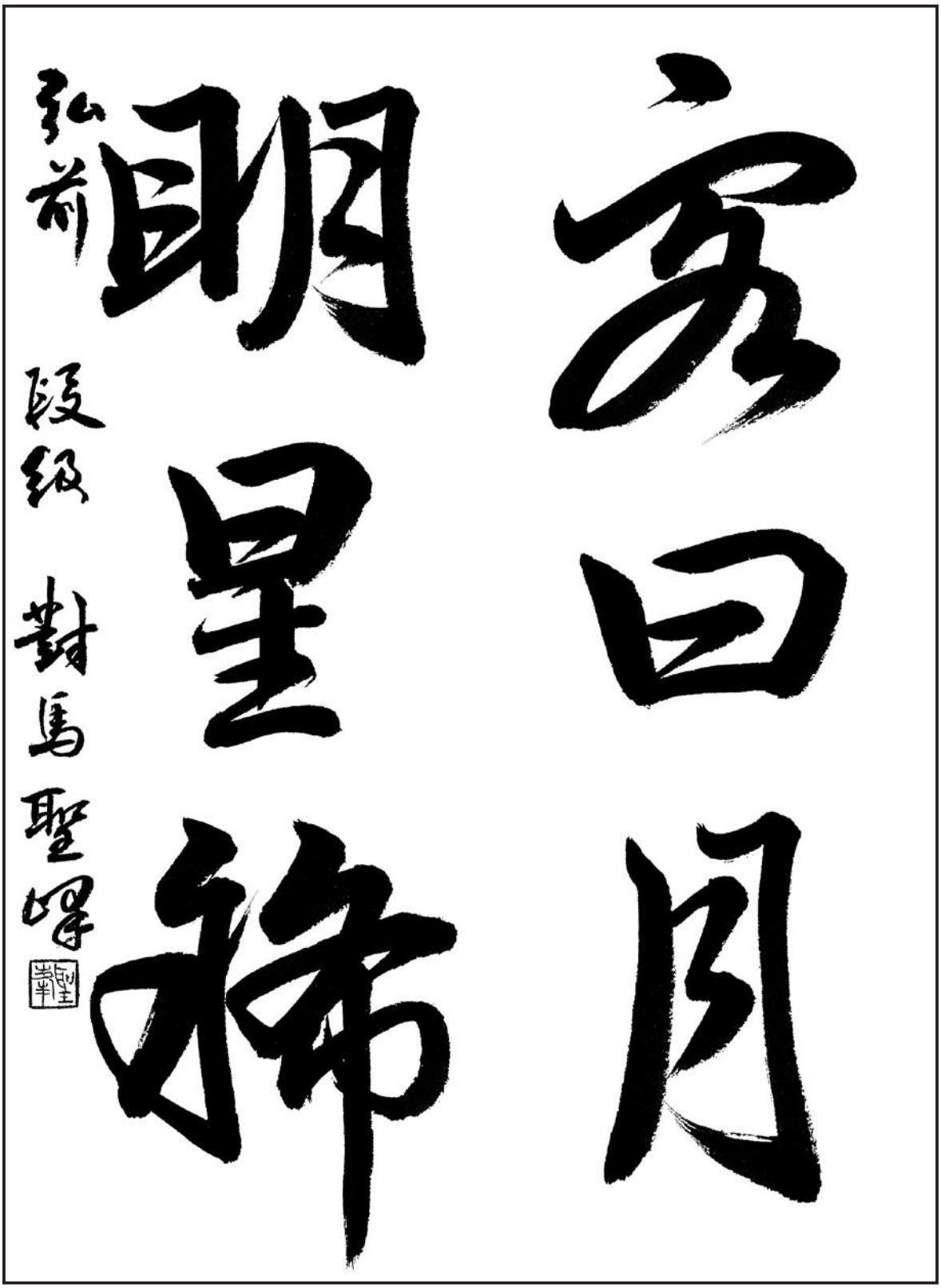
〔元〕 下部で広がり安定させる。4画目は思い切り内に入れてから横へ。

〔氣〕 上部を狭く、下部で広がる。**米**は中心より左に寄せて重心を移動させ、バランスをとる。

2月号　　行書臨書課題（漢字半紙部）　對馬聖峰臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

※弘前の部分には支部名を書く



使用筆（花林）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

行書臨書課題解説

趙孟頫（ちょうもうふ）　前赤壁賦（ぜんせきへきのふ）

原帖

〔客曰月明星稀〕客曰（いわ）く、月明（つきあき）らかに星稀（ほしまれ）に、

〔客〕 宀は1画目の点と2画目とは間を広くあけてゆったりとした空間をつくる。**各**は位置に留意し、左の動きを大きく。横広に小さくまとめ、位置に注意する。下部を引き締め、中の余白の取り方をよく見て。**日**と間違わないように。

〔曰〕 1・2画目の入筆の用筆は、骨法を参考に。内部の動きは軽快だが骨力を失わないように。

〔月〕 縦画・横画の方向の変化に配慮し、偏の下部に余白を残す。**月**の2画目のはねの部分は筆の腹を途中まで使って重く。

〔明〕 上部は筆圧を十分に、下部は細めで爽やかに。下部が引き締まる形にまとめる。

〔星〕 偏の幅を狭く旁を広く。折画は強くきちんと当たる。偏と旁は近いが、中の空間が狭く見えないようにゆったりと。

〔稀〕 最終画は長くのびやかに。

２月号　　草書臨書課題（漢字半紙部）　　中井嶺暁臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（四海）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

草書臨書課題解説

智永（ちえい）　草書千字文（そうしょせんじもん）

原帖

〔殆辱近耻林宰〕辱（じゅく）に殆（ちか）く恥（はじ）に近きときは、林宰（りんさい）に…。

〔殆〕 偏と旁の間の余白を広くとり、大らかな感じに。偏から旁へはゆったりと大きな動きで。

〔辱〕 左上から右下へ重心を移動する。微妙な線の変化に留意し、柔らかい感じを出す。

〔近〕 入筆は角度を作らず、ゆったりと入る感じで。余白の取り方に配慮し、辶は筆圧の変化をつけて重厚な線で。

〔耻〕 右上がりの縦長の台形にまとめる。1画目は太細のつけ方に配慮し、点で強くおさえて、筆のバネで次画へ向かう。

〔林〕 偏を太く旁を細目に、線質の変化に配慮してまとめる。

〔宰〕 縦長で下部がしまった形にまとめる。筆順に注意（骨法参照）し、下部縦画に絡んだ線は方向に気を配って、動きがわかるように。

２月号　　隷書臨書課題（漢字半紙部）　　對馬聖峰臨

※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

※弘前の部分には支部名を書く

使用筆（四海）・使用紙（無罫半紙・桐）・使用墨（黒耀）

隷書臨書課題解説

乙瑛碑

原帖

〔常丞監祠河南〕（大）常の丞は祠を監し、河南の…。

〔常〕 上と下の部分がずれる形となっている事に注意する。全体に縦長にまとめ、最終画は十分な筆圧で。

〔丞〕 ほぼ左右対称にまとめ、左の終筆は押し込む感じに、右はらいはゆったりと。

〔監〕 偏は幅を狭く、筆順に注意する（骨法参照）。旁は横画と下部の縦画の間隔に注意し、**皿**の下部は横画と縦画が接しない。

〔祠〕 偏の幅を狭く旁を広く、旁の下部に余白を残す。**司**の1画目のカーブは浮かせないで、十分な筆圧で縦の部分へ。

〔河〕 **氵**は各画の方向・位置に配慮し、下部に余白を残す。旁は余白を均等にとり、はねは筆の腹を使ってどっしりと。

〔南〕 1画目は長く入筆の角度に注意する（骨法参照）。上下の縦画がずれている事に注意する。

2月号　　中 字 課 題（漢字半紙部）　　津島春汀書

※出品段級位（漢字半紙部 新級～正師範）

◎19頁に部分解説があります。

楷・行・草の三体字典からとっています。

使用筆（天開）・使用紙（中字用半紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）

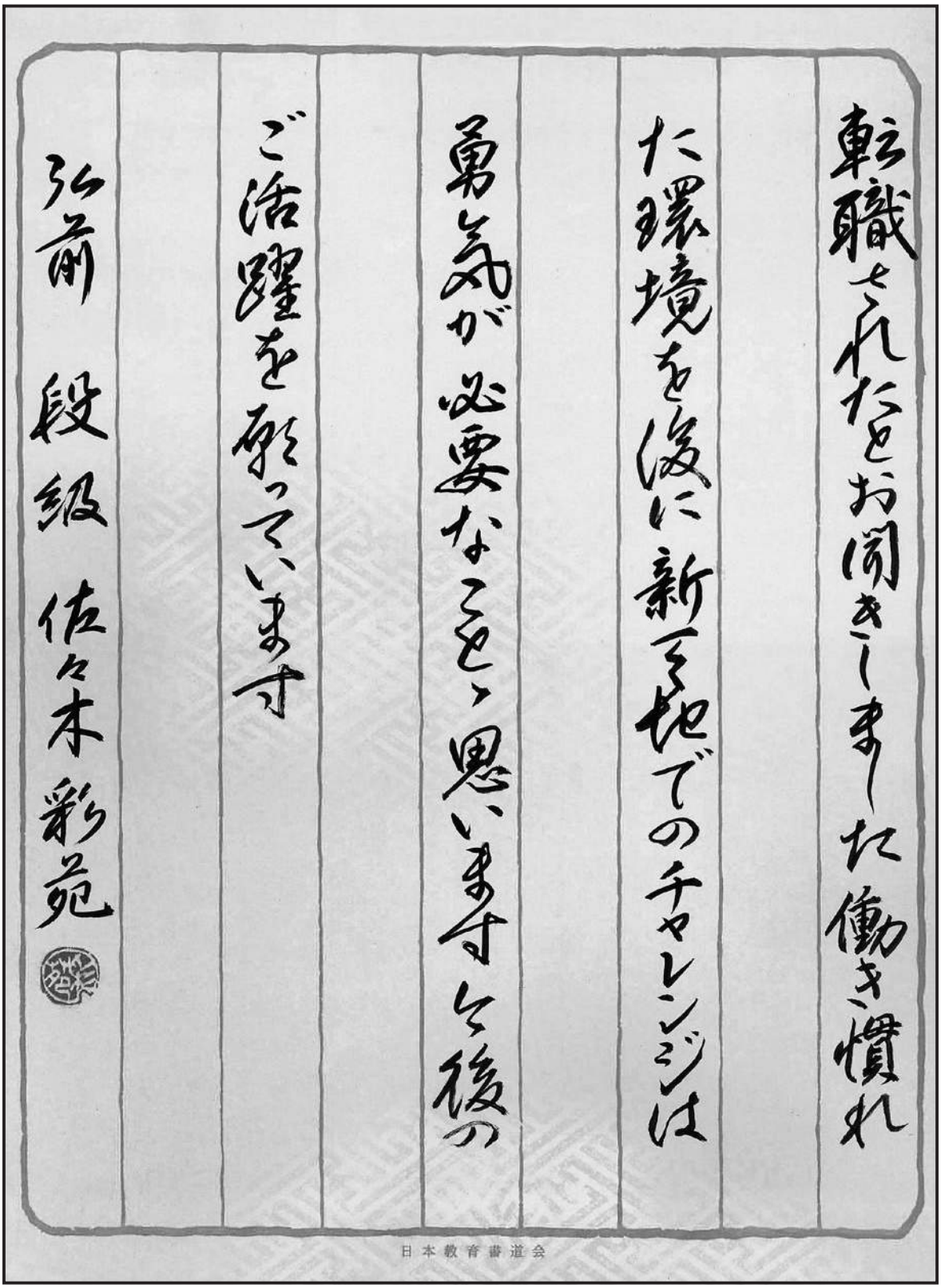
※弘前の部分には支部名を書く

２月号　　調和体（漢字かな交じり文）課題　　佐々木彩苑 書

※出品段級位（調和体部 新級～正師範）

◎19頁に部分解説があります。

使用筆（からまつ）・使用紙（調和体用紙）・使用墨（書芸呉竹〈固型〉）



読み―転職されたとお聞きしました働き慣れた環境を後に新天地でのチャレンジは勇気が必要なことゝ思います今後のご活躍を願っています

（◎印墨つぎ）

※弘前の部分には支部名を書く

漢字条幅漢詩課題

A 漢字条幅部
※出品段級位（新級～正師範）

文字は複数の線によって構成されています。当然その過程の中で余白の部分が生じることとなり、一字の文字の内外に生じる余白の広狭は、線の内容によって大きく影響を受けます。つまり、書線は単なる平面上の実線ではなく、空間に広がり得るものでなければいけません。余白はこれ自体単独で存在するのではなく、線が書かれることによって、はじめて生まれてくるものです。したがって余白を生かすように点画を構成するという意識と、白に相反するところの黒、すなわち書線の充実に努めなければ生きた余白を生み出すことはできません。細かい小さな余白が大切ということもあります。先生のお手本から、この余白の美しさを学んでほしいと思います。

『「見せどころ」を生かすには、前後左右の処理を考慮することは、とても大事です。今月では1行目の**客**、2行目は**慣**、そして最後の**何**を盛り上げました。それらに繋がっていく前の2～3字は、いわば助走に当たります。一般的には墨つぎの前字を「山」にするとよいです。』

（『　』内は對馬聖峰より）

使用筆（白神）・使用紙（漢字条幅用紙半切・梅花箋）・使用墨（頂煙翰墨自在〈固型〉）

對馬聖峰書

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

〔◎雨雪征途悪　風霜客路◎多　遠行君自慣　◎無奈妾愁何〕浦鴻鈞　（◎印は墨つぎ）

読み―雨雪征途悪しく、風霜客路多し。遠行君は自ら慣るも、妾が愁を奈何ともする無し。

意味―雨や雪で行く路は難儀、風と霜は旅路に多い。君は遠くに行くのに慣れているが、妾の愁いをどうすることもできない。

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅臨書課題

B 漢字条幅部

※出品段級位（新級～正師範）

◆王羲之（集字聖教序）

◎行書の基本点画

（十七）

異＝異

聖＝聖

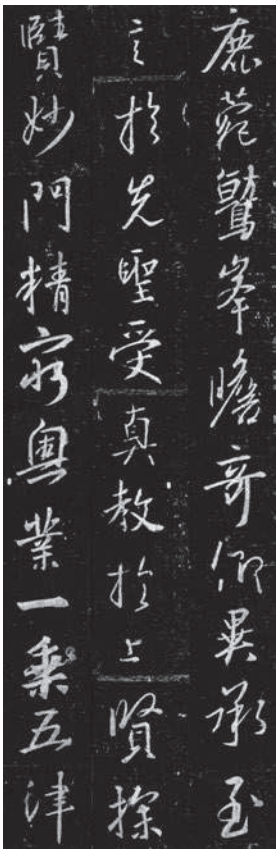
（十七）鈎鎌勢

①は次の画へ連続する。

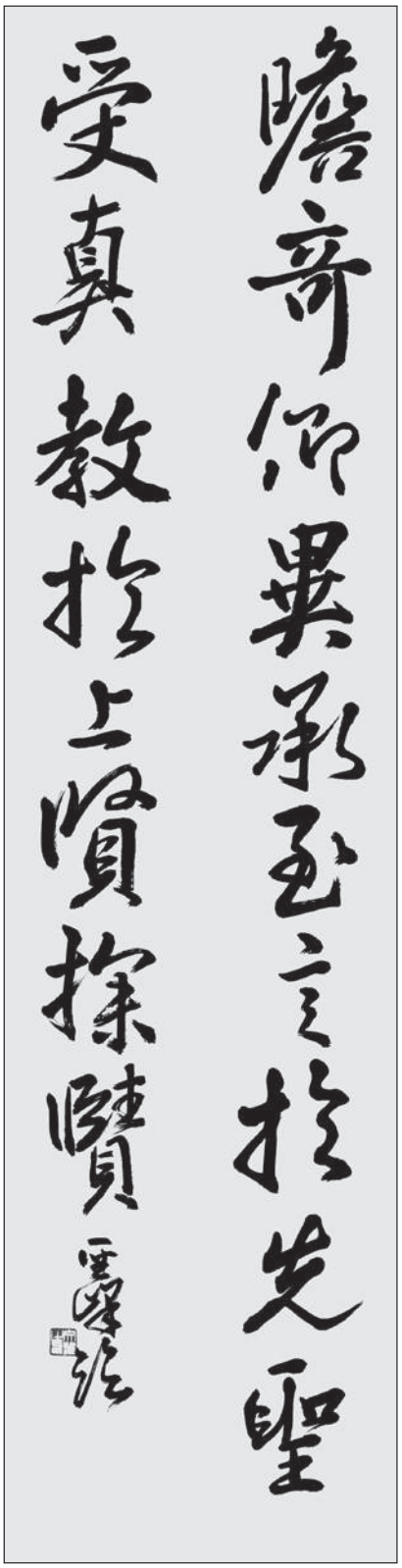
②は楷書に似ている。

課題から探してみると、異、真は②に近く、受、教は②の用筆である。

①は賢に見られる。



對馬聖峰臨



〔◎瞻奇仰異○　承至言於先聖◎　受眞教於上賢　探賾〕（◎印は墨つぎ　○は補墨）

読み―奇を瞻げ異を仰ぐ。至言を先聖より承け、真教を上賢より受く。（妙門を）探賾し、

意味―奇異なる風景を仰いで釈迦の偉大さを偲んだ。先代の聖人たちより至高の言葉を伝えられ、賢人たちからは真の教えを授けられた。（玄妙なる真理に至る道を）深く探り、

使用筆（神技北斗）・使用紙（漢字条幅用紙半切・華心箋）・使用墨（黒耀（固型））

半　切（約136×約35センチ）

半切検定課題原寸大手本
500円で販売しております。

揮毫動画を配信しています
詳しくはP33をご覧下さい

注　意

漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

漢字条幅初等課題

漢字条幅部
※出品段級位（新級〜準三段）

2月号ですが、春が待ち遠しいので、「春風」の字が入った詩文を選んでしまい、思ったほどしっくり行かず苦戦してしまいました。

「春・風・騎」と3字でひとつの文字群に、「馬・醉」と2字でひとつの文字群にして下さい。字間の広さは「騎」と「馬」の間を一番広く空けて、次は「風」と「騎」でしょうか、全体に太くどっしりと書いて下さい。

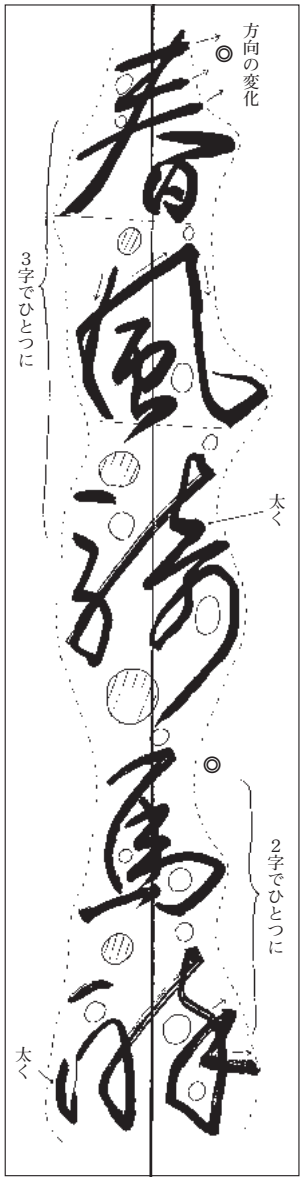
〔春〕
- 墨量多目に書き始め、横画3本は太細の変化を付けながら不平行に書いて下さい。

〔風〕
- 全体の5文字の中で3番目位の大きさに書いて、少し動きも出して下さい。

〔騎〕
- 山場です。概形を不等辺三角形につくり動きも出し、一番大きくしましょう。

〔馬〕
- 墨継ぎです。一番小さく、5本有る横画は不平行に。

〔醉〕
- 最後の字です。上部の4文字を支える役目が有りますので、安定感が欲しい所です。



使用筆（心月）・使用紙（四半切華心箋）・使用墨（黒耀（固型））

佐々木 彩苑 書

〔春風騎馬醉〕劉長卿
（◎印は墨つぎ）
読み―春風馬に騎って醉う。
意味―ほろ酔い気分で馬に乗って春風に吹かれる。

四半切（約68×約17.5センチ）
初等課題原寸大手本300円

注　意
漢字半紙部門と段級位は異なりますので漢字条幅部門の段級位をご記入下さい。なお、初めて出品の人は新とお書き下さい。
支部名・段級位・氏名は鉛筆で左下に記入下さい。

※出品段級位（ペン部 新級～正師範）

2月号　ペン楷書課題（ペン部）　三浦景秀書

人間は柔順な
動物であり
どんなことにも
馴れてしまうところの
存在である

ドフトエフスキー

支部名
学年
段級位
初めての人は新と書く
氏名

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価１１０円

（ボールペン0.7・硬筆用紙６行使用）

※出品段級位（ペン部 新級～正師範）

2月号　ペン行書課題（ペン部）　三浦景秀書

人間は柔順な
動物であり
どんなことにも
馴れてしまうところの
存在である

ドフトエフスキー

支部名
学年
段級位
初めての人は新と書く
氏名

※ドフトエフスキー（1821～1881）…ロシアの小説家。

※課題執筆と同じペンを本会で取扱っております 定価110円

（ボールペン0.7・硬筆用紙6行使用）